

ほ場整備事業の発掘調査

よこごし みすくぼ
横越水窪遺跡、
はま くら さき の だ ひらえのき
浜黒崎野田・平榎遺跡、
ひらえのきかめ だ
平榎亀田遺跡の調査—

とっておき埋文講座①

はじめに

あいの風とやま鉄道に乗り水橋駅から東富山駅へ向かうと、常願寺川を渡ってすぐ南側に広大な水田が広がる地域があります。ここに標題の遺跡が位置します。現在は、ほ場整備の工事が進められています。工事はなるべく遺跡が壊れないように計画されますが、新たに作られる水路部分など、どうしても避けられない箇所があります。そのような箇所では、工事前に発掘調査を行いました。

発掘調査は（公財）富山県文化振興財団が平成27年9月下旬から11月下旬、平成28年8月中旬から11月中旬まで実施しました。発掘調査は幅1～3mほどの狭い範囲で行い、遺跡の全容を知ることはできませんが、多くの発見がありました。

今回発掘調査を行ったのは横越水窪遺跡、浜黒崎野田・平榎遺跡、平榎亀田遺跡の3遺跡です。

遺跡は富山県のほぼ中央を流れる常願寺川左岸の平野部で互いに隣接して位置します。周辺は神通川と常願寺川によって形成された複合扇状地末端の低地にあたります。標高は4～5m、北方1.2～1.5kmには富山湾が広がります。

横越水窪遺跡

遺跡は平成26年度に富山県教育委員会の試掘調査で新たに発見されました。発掘調査はあいの風とやま鉄道南側に隣接する箇所で行いまし



横越水窪遺跡

た。遺構は多くの溝・土坑がみつかりました。溝は遺物量が少ないため生活に関わる溝とは考えられにくく、水田の水路と考えます。現在の水路は南北方向にまっすぐ延びていますが、見つかった水路は斜め方向や湾曲しています。旧地形を利用した水路です。土坑は多く見つかりましたが、なかには深さ1m近いものがありました。埋まっている土を掘ると、どんどん水が湧き、作業中はポンプを入れていましたが、止めるとすぐに満水になりました。これらは井戸として利用されました。



井戸

遺物は縄文時代から江戸時代までのさまざまな年代のものがみつかり

ました。縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、肥前陶磁、木製品、石製品（打製石斧、磨製石斧、砥石、緑色凝灰岩剥片）、金属製品（銅銭）があります。なかでも鎌倉時代から江戸時代のもが多く、遺構の年代もこの頃が中心となります。

浜黒崎野田・平榎遺跡

遺跡は、かつては野田遺跡、平榎遺跡、平榎城推定地と称され、古くから知られていました。富山県の考古学史の先駆者として知られる早川莊作氏は、大正15年に刊行した『越中石器時代民族遺跡遺物』の中で、浜黒崎村平榎遺跡で土器や石器を発見したことを記しています。

発掘調査はあいの風とやま鉄道南側で、遺跡を南北に貫く市道宮条平榎線の東側で行いました。遺構は溝・土坑がみつかりました。溝は遺物量が少ないため、水田の水路と考えます。土坑の機能は不明です。

遺物は縄文土器、弥生土器、青白磁、石製品（砥石、ヒスイ剥片、緑色凝灰岩剥片）などがあります。遺物の年代は古いものがありますが、遺構は横越水窪遺跡と同様に、鎌倉時代から江戸時代が中心となります。

今回は市道宮条平榎線の東側で発掘調査を行いました。この市道西側では平成7年度に富山県教育委員会により発掘調査が行われました。その際も遺跡の一部で調査が行われたため全容はわかりませんが、報告

書によると、遺物の出土状況や遺構から、遺跡北部は縄文時代後期～晩期の土器捨て場、遺跡中央部付近～南部は弥生時代中期～古墳時代前期の集落跡、遺跡中央部～東部は平安時代と中近世（鎌倉時代～江戸時代）の集落跡と推定されています。集落の中心はこの市道西側で、今回の調査地は遺跡の縁辺と考えます。ヒスイや緑色凝灰岩の剥片がみついていることから、弥生時代の集落の中心では勾玉や管玉などの玉作りが行われていた可能性があります。

平榎亀田遺跡

遺跡は横越水窪遺跡の南側で、浜黒崎野田・平榎遺跡の東側に位置します。約252,500㎡にわたる広い箇所が遺跡範囲です。



柱列

発掘調査は遺跡範囲全体に点在进行していました。人々の暮らしの痕跡は、現在の集落の東側や南側で、掘立柱建物を構成すると考えられる柱穴列や竪穴建物がみついています。そのほかの箇所では水田の水路と考えられる溝がみついています。土坑のうちよく湧水するものは、井戸と考えます。



遺跡遠景

遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、中国製青磁、越中瀬戸、伊万里、唐津、土製品（土人形、羽口、土錘）、木製品（漆器椀・皿、箸、下駄）、石製品（打製石斧、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片、硯、砥石、五輪塔）、金属製品（和鏡、煙管、銅銭、鉄滓）があります。

遺跡では平安時代ごろから人々が生活を営み始めたことがわかりました。それ以降では確認できませんでしたが、より暮らしやすい場所を求めて今日の集落と同様な立地で暮らしていたのでしょう。

現在の集落の東側ではV字状に掘られた薬研堀がみつかりました。遺跡がある平榎地内には上杉謙信により攻め落とされたと伝えられる平榎城があったとされており、地区内の住吉社は城中の鎮守として祭ってきたと伝えられます。今回の調査でみ

つかった堀はこれに関連する可能性が高いです。



堀の断面

おわりに

発掘調査により、少しずつではありますが、地域の人々の過去の暮らしが見えてきました。このような調査成果の蓄積が地域の歴史の解明につながります。平成29年度も調査は計画されており、さらなる成果が期待されます。

（高柳 由紀子）